民報あばしり
NO.1322
6月27日
発行所
日本共産党網走市委員会
網走市北八西三
TEL四三-四四五八
F四三-四四五七

小選挙北海道12区に立候補表明

菅原 誠 地区委員長 命と暮らしを守る政治を

「新しい政治をつくろう」と話す菅原氏

日本共産党北見地区委員会は22日、北見市で記者会見を行い、9月にも行われる衆議院選挙で小選挙区北海道12区に菅原誠地区委員長（47才）を擁立すると発表しました。

会見には菊池豪一北見地区副委員長と池田 博北海道委員会常任委員が参加しました。テレビ、新聞など各マスコミが取材に入り、質疑応答も行われました。

菅原氏は、記者会見の中で「安倍・菅政権の約10年の悪政が、コロナ危機の中で国民の命と暮らし、生業を守る点でも大きな困難をもたらしている。その上、菅政権はオリンピック優先で命と暮らしを守る政治を軽視しているとして、この総選挙で自公政治を転換し、命と暮らし、生業を守る政治を実現していきたい」と決意を表明しました。

また、活動する中で、有権者から今の政治に対する怒りだけでなく、新しい政治を求める声が広がっている思いを受け止めてきたとして、それに応える『新しい政治、野党連合政権を一緒につくっていこう』と有権者に呼びかけていきたい、と抱負を語りました。

菅原氏は「命と暮らしを守る政治の実現」として、コロナ対策を第一に進めること、そして12区は第一次産業が基幹産業であり、それを守り発展させていく対策に力を尽くしたいと表明しました。

6月議会村椿議員の一般質問

議会は一旦立ち止まり、議論をつくす 行革方針を見直し、正職員に採用を

問 教育委員会が進めようとしている集約化は、3月議会で否決されたものと同じであり、議会での議論を否定するもの。議会の議論をどう受け取っているのか。

答 議会の決定は重く受け止めている。しかし、委託の方針は変わらないが、直営のもとで集約化を行い、小規模調理場の現状と調理員不足問題を解決したい。

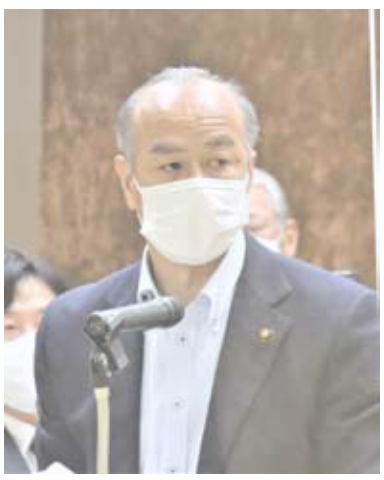
問 文教民生委員会の所管事務調査では、調理員の休暇取得問題、食材の確保、養護教諭の負担が出されたが、網走市はこれらの問題に対して具体的に何を取り組んできたのか。

答 調理員を2名募集し、応募はあったが採用に至っていない。食材の確保については現状のままである。養護教諭の負担については事務職員の負担も早期に解決すべきで給食費の公会計を検討している。

問 市は現業職員の退職者不補充という行革の方針のもと、正職員を減らし続けた結果、小規模調理場には会計年度任用職員しかいない状況となり、業務が困難になってきた。今の方針を見直して、ベテランの会計年度任用職員を正職員として採用することが、問題の解決に向かうのでは。

答 これまで、ゴミの収集処理など民間委託を進めた結果、民間のノウハウを活かして来ている。給食調理業務もノウハウを活かし、問題を解決していきたい。

村椿議員は、議会の意思は一旦立ち止まって議論をつくす。今後、所管事務調査も行い、しっかりと議論していくべきだと述べ、質問を終わりました。



市民の関心高まる

傍聴者 8人

一般質問初日の22日、3月議会で給食調理場の集約化予算が削減されたこともあり、議会への関心は高まり、傍聴席には8人の市民が足を運んでくれていました。

3番目に立った村椿議員の質問について感想を寄せていただきましたので、紹介します。

給食調理の質問について

「一回決まったことを、何故また出すのかと、丁寧に質問していたと思う。意地の悪い質問でもなく想定された質問に答弁ができない時もあり、良い質問だと思った。時折、答弁に『ありがとう』の言葉もあり、気持ちが伝わった。」

晴れた日でしたが、議事堂は風邪でもひきそうな寒さでしたが、「面白くなってきた。ここで引くわけにはいかない。」と休憩後も聞いていたそうです。

寒い中、ありがとうございました。

「国会かけある記」

北海道で聞いた苦難の声

2021年6月21日

参議院議員　岩渕　友

八王子から都議会をめざすアオヤギ有希子さんと訴えました。

通常国会が閉会しました。コロナ対策をどうするのか、課題が山積するオリンピックの問題をどうするのか、政府・与党は野党の国会延長の求めに応じず、一方で、国会最終盤、与党推薦の参考人までが懸念を示した土地利用規制法案を徹夜国会まで行って強行、自分たちの通したい法案はどんな方法を使ってでも通すという強権ぶりをあらわにしました。こんなやり方を許すわけにはいきません。

閉会後、北海道入りしました。紙智子参院議員、はたやま和也前衆院議員と団体の方々との懇談を行いました。北商連では、「催事関係の業者は実質廃業状態。行くと言わなければ次は仕事が来ないし、行けば必ず赤字になる。『コロナが出たら賠償』とまで言われている」「昨年の給付金分が収入に認定されて、国保料減免の対象にならない」など、引き続き深刻な実態が出されました。

札幌と苫小牧のＤＶ被害者の支援を行う団体の方々からは、「被害者を守るために、接種券がなくてもワクチンを打てるようにしてほしい」という要望をいただき、刑法改正や、選択的夫婦別姓、共同親権など、意見交換を行いました。

街頭からも訴えました。科学的根拠も示さず、自分たちの都合の悪い意見には耳をふさぎ、オリンピックに固執しているのが菅政権と小池都知事です。きっぱり中止して、コロナ対策に集中をするべきです。その審判を下すチャンスが東京都議選。お知り合いの方に支持を広げて下さい。

松浦さとし奮戦メモ！

6月議会が24日に終わりますが、一般質問も無事に終わることができました。①国保問題では、資産割がなくなったことでの影響。コロナ禍での特例減免制度の実施状況など。②コロナ感染の影響と今後についてでは、中小・小規模事業者、飲食業への支援策を取上げ、更なる支援と低所得者への支援は国の定額給付金以外の支援がないので市としての支援を求めました。

また、児童・生徒の「生理の貧困」を取上げ、日本の社会では「生理は恥ずかしいこと」と誤った認識が定着しているが、成長期の女性の健康を守る必要がある。子どもの貧困が問題になっている中で、小中学校の女子トイレに生理用品を置くことを求め、その方向で検討すると答弁がありました。質問後に公明党の議員から「とても良い質問でした。ありがとうございます。男性が質問してくれて嬉しかった」と、言われて驚きましたが、他の女性たちからも理解されて良かったです。

村ちゃんが駆ける

家族で公営住宅に入居し、子どもはひとり立ちし、3階4階に1人で住む高齢者が多くなっている。階段の上り下りが大変、住み替えはできないのかと今回の議会で質問しました。住み替えは年に4件ほどで少ない状況です。エレベーターの設置を求めると、つくし6丁目の48戸を今年と来年でエレベーターを設置する計画とのことですが、さらなるエレベーターの設置が急がれます。大曲の空きの多い住宅も改修が必要です。

先日、猟友会の方から鹿を1頭いただいたので、ナイフで皮をはぎ、ふとももと背ロース肉をさばきました。実家ではニワトリをさばいたりしていたと思いますが、今はスーパーで手に入りますので、「生き物は肉」の感覚を忘れ、生き物のありがたさを感じることが少ないです。若い鹿肉は柔らかく脂がなくてとってもヘルシーで、おいしい。しかし、多くは肉にならずに肥料になっています。

流氷

東京オリンピックの開催についての世論調査で、国民の多くの人が中止、延期を求める。政府分科会尾身会長は「今の状況でやると言うのは普通でない」と発言した。菅首相、国会の答弁で「国民の命を守るかどうかが基本だ」と、中止するとは言わず、7ヶ国首脳会議に出席し、オリンピックへの選手の派遣を要請、五輪開催の決意を表明した。国民にはガマン、命より五輪が大事。やるべき事もやらずに五輪を政治利用しようと、目論む。▼春蝉の声を聞きに天都山へ向かう、空は高く青い、天都山の緑深きトンネルで野鳥の声を聞く。命を絆ぐ春蝉の力強い声に、元気と、力をもらう。やさしい緑の風が心地いい。昨年ジョギング中に蕨畑を見つけ、急ぎ帰り、車を飛ばしたが、すでに蕨は採られて、後の祭り。今年も山菜は無いかと注意しながら走る。5月下旬早出の蕨畑を見つける。太く柔らかで美味しい（初物は3日長生き）蕨の灰汁抜きに、畑の周りの草を刈り、草木灰を作る。山菜を食べてコロナに対抗。▼最近、恩師が亡くなった。人の一生の間には、自分の人生に深くかかわり、影響を与える出会いがある。その人は、事故で下半身不随の障害者となったが、車椅子で教壇に復帰した、不屈で、努力の人だった。車を運転し、畑作りもしていた。いつも素敵な笑顔で、元気をもらっていた。あなたは亡くなったが、あなたの『心』は私に受け継がれて生きている。

アスリート爺